

神戸大学海外インターンシップ就業実習報告書

国際人間科学部グローバル文化学科 3 年

1. インターンシップ概要

○派遣国（都市）

ポーランド（トルン）

○派遣先機関

ニコラウス・コペルニクス大学 人文学部 日本学科

ニコラウス・コペルニクス大学 人文学部 文化学科

○派遣期間

2020 年 3 月 2 日(月)～2020 年 4 月 1 日(水)

○研修内容

対面授業の見学・補佐、授業の実施、オンライン授業への参加、
個人レッスンの実施・補佐、日本語会話サークルへの参加

2. 派遣国（都市）・派遣先機関について

今回派遣されたポーランドはバルト海に面した東欧の国で、ドイツ・チェコ、スロバキア、ウクライナなどの国と隣接している。トルンはポーランドの北中部に位置し、ワルシャワから電車で3時間ほどの距離にある街である。ニコラウス・コペルニクス大学はトルンにある総合大学で、その名は同地出身の天文学者コペルニクスに由来する。日本学科及び文化学科があった言語学部は今年度から人文学部へと改称された。日本学科には約 100 人の学生が在籍している。

3. 研修内容

以下は派遣期間中の活動概要である。

日付	対象	内容
3 月 4 日(水)	日本学科 3 年生	ロールカードを使用し、 「誘う→断る」の練習
	日本学科 修士 2 年生	オリエンテーション

3月5日(木)	日本学科 1年生①	「～たいです」「～てもいいですか」
	日本学科 1年生②	〃
3月9日(月)	日本学科 2年生①	受身文の復習、「～てもらう」、使役受身
	日本学科 2年生②	〃
	日本学科 2年生②	複合動詞「言い～」、スピーチの練習
	文化学科 1年生	「<身体の部位>が<形容詞>です」、「<語幹>に行く/来る/帰る」
3月10日(火)	日本学科 3年生	ディスカッション「男尊女卑 or 女尊男卑」
3月11日(水)	日本学科 3年生	敬語
	日本学科 修士2年生	プレゼンテーション
	日本学科 修士1年生	ディベート
3月17日(火)	10歳 女兒	個人レッスン
3月18日(水)	4歳 男児	個人レッスン補助
3月23日(月)	10歳 女兒	個人レッスン
3月26日(木)	日本学科 1年生	オンライン授業 「しか～ない」「も～ある」

○対面授業の見学・補佐

新型コロナウイルスの影響で3月12日から大学が休みになってしまったため、対面授業に参加できたのは一週間ほどであった。

主に、ニコラウス・コペルニクス大学に勤務している3人の日本人教師が担当している授業に参加した。ペアワークやグループワークに参加したり、学生が解いた問題の答え合せ・解説を行なった。一度だけ参加したポーランド人教師が担当するディスカッションの授業では日本人としての意見や外国人から見たポーランドの感想を述べる機会もあった。

○授業の実施

3月11日(水)、日本学科の修士2年生の授業でプレゼンテーションを行なった。自身が経験のある琴と、卒業研究でもある認知言語学をテーマとして選択した。プレゼンテーションの際には、学生が発言する機会を設け既に知っていることを引き出したり、実際に動画を鑑賞したりするなど、相互的な活動になるようにした。また、専門用語をわかりやすく言い換えるなどの工夫も行なった。

同日、日本学科の修士一年生のディベートの授業でファシリテーターをした。それぞれのグループへの意見の聞き方や進行の仕方などについて担当の先生からアドバイスをいただいた。

○オンライン授業への参加

3月12日以降大学は休みであったが、3月25日からzoomによるオンライン授業が開始したため、参加させていただいた。対面授業と同様にグループワークや会話練習に参加した。相手の顔が見えない中で、いかにわかりやすく日本語で伝えるかはとても難しかったが、今後オンラインによる授業が普及していく可能性も考えると貴重な経験であったと思う。

○個人レッスンの実施・補佐

大学に勤める日本人教師の1人が知り合いの子ども（ポーランド人）に日本語の個人レッスンを行なっていたため、同行させていただいた。かつて日本に住んでいたことがあり、日本語を忘れないために定期的に話す機会を設けているということで、ボードゲームやごっこ遊びの中で自然な発話を促すレッスンであった。また、別の子どもとのレッスン時には絵本を一緒に読んだりカルタをするなど、「勉強」になりすぎないように自然な流れで日本語を話せるよう心がけた。

○日本語会話サークルへの参加

有志の修士課程の学生と現地の日本人学生による日本語会話サークルがあり、そこに参加した。学生に日本語を使用する機会を増やしてもらうことを目的とするものである。大学が休校になってからは、参加者を日本学科の卒業生まで広げ、現在も毎週末zoomを使用して開催されている。

4. 感想

日本語教育に関心がある自分にとって、研修期間中は毎日新しい発見があり、全てが新鮮な一ヶ月であった。新型コロナウイルスの影響で思うように活動はできなかったものの、海外での日本語教育の現場を実際に見られたことは貴重な経験であった。また、オンライン授業や子どもに対するレッスンなどはこのような

状況であるからこそ体験できたことであり、限られた状況の中でも多くを学ぶことができたように思う。ご指導いただいた先生方には深く御礼申し上げたい。

また、日本から遠く離れた国で試行錯誤しながらも学生と向き合う先生方や、いつか日本に行くことを夢見て勉学に励む学生たちの姿を見て、改めて日本語教育に携わりたいと強く感じた。

最後に、このようなイレギュラーな状況下で、帰国までサポートしてくださったコペルニクス大学と神戸大学の先生方、そしてポーランドで出会えた全ての方々に心より感謝申し上げます。

写真



